令和８年度　Ｎｏ．２０

銀杏坂

～輝く薩摩中央～

令和８年１１月４日（水）

令和８年１１月４日(水)付南日本新聞に春高バレーの記事が掲載されましたので、紹介します。

バレー 全日本高校選手権県予選

バレーボールの全日本高校選手権（春高バレー）鹿児島県予選最終日は３日、いちき串木野市のＦアリーナいちき串木野で男女の決勝があった。男子は川内商工が鹿児島商を３－０で破り、６年連続７度目の頂点に立った。女子は鹿児島城西が薩摩中央を３－１で下し、２年連続10度目の優勝を果たした。

男女の優勝校は全国大会（来年１月・東京）に出場する。

▽男子決勝
川内商工 3 25 25 25
鹿児島商 0 17 20 18

▽女子決勝
鹿児島城西 3 25 21 25 25
薩摩中央 1 19 25 18 13

鹿城西 女子 ２連覇

県内４冠 粘りの守備 攻撃に流れ



第４セット、スパイクを決める鹿城西の砂坂＝Ｆアリーナいちき串木野（税所陸郎撮影）

「勝って当然」の重圧をはね返し、女子の鹿城西は新人大会、全九州総合予選、県総体と合わせ県内４冠を成し遂げた。攻守で総合力の高さを見せ、第４セットを奪取すると全員がベンチを飛び出し、肩を抱き合って喜んだ。３年生にとって集大成の舞台。リベロの桑原は「どのチームからも意地を感じた。勝ててほっとした」と笑顔を見せた。

準優勝した青森国スポで共に戦った隈元が引っ張る薩摩中央との決勝。２セットを先取したが、堅守を誇る相手に攻撃を読まれ第３セットは失った。

第４セットは２年生エースの頼富が警戒される中、「相手陣形の穴を３年が共有しながら粘り強く戦えた」と砂坂主将。軟打やフェイントも駆使して流れを取り戻した。

両サイドの強烈な攻撃に目が行きがちだが、相手を引き離す前には必ずと言っていいほど粘り強い守りがあった。桑原は「どんなに速い球でも拾ってみせる」と何度も飛び込み、気迫を見せた。

試合前、西田監督は「最高の挑戦者として戦おう」と選手を送り出した。夏の全国総体は決勝トーナメント１回戦で涙をのんだ。「全国で上位に行くにはまだ足りない。もっとできる」と砂坂主将。「粘り強く戦って、『城西』の名を歴史に刻んで終わりたい」と気を引き締めた。

（木下瑛司）

ハイライト HIGHLIGHT

粘り発揮できた



薩摩中央・大町あづみ主将（女子準優勝）「序盤は相手ペースだったが、第３セットは持ち味の粘りを発揮できた。けがで今大会はコートに立てない分、みんなに声をかけ続けた。最高の戦いぶりを見せてくれた」